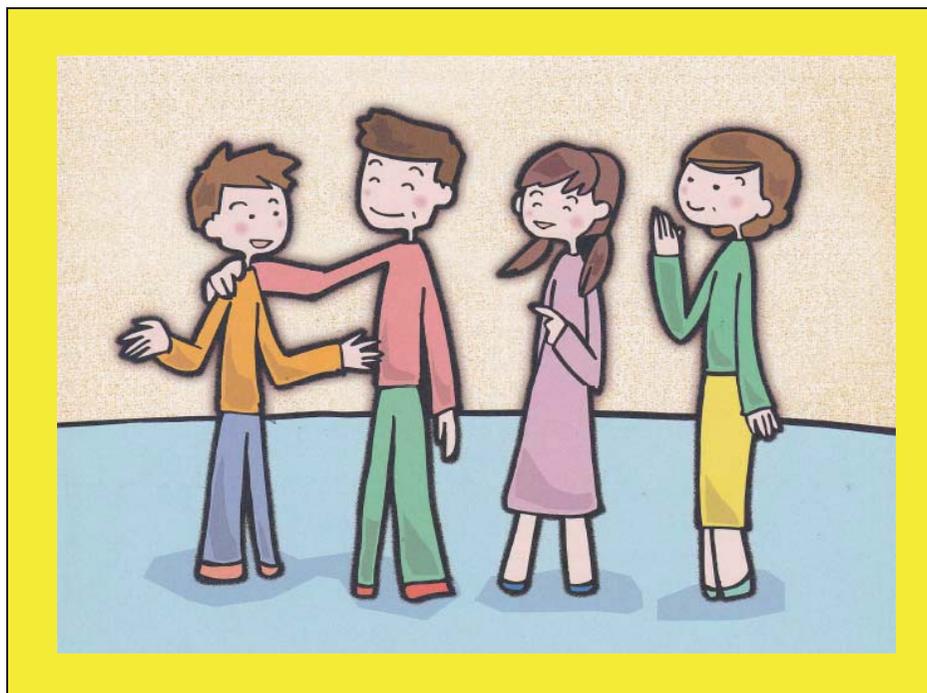


中学校用

家庭教育学習資料

平成29年度改定

語り合いを通じた親育ち



家庭は教育の原点

家庭は、子どもの人格形成を担う最も基礎的な場です。親の責任を自覚し、家族の深い愛情と、時には厳しさを持って思いやりのこころを育みましょう。

- 1 子どものよさを見つけ、子どもに自信を持たせましょう。
- 2 親は子どもに「してはいけないこと」を責任を持って教えましょう。
- 3 家族の一員としての役割を子どもに持たせましょう。

滋賀県教育委員会

家庭教育学習資料を活用した 親育ち・家庭教育学習講座

子育ては悩みの連続

- 交友関係
- しつけの仕方、叱り方
- 中学校での集団生活
- 親同士の人間関係
- 遊びの内容
- 子どもの変化への対応等

語り合い
学び合い

親育ち・子育て学習講座

家庭教育学習資料

- 親自身に関する課題
- 親子関係に関する課題
- 親子と地域との関係に関する課題

- ◎参加者自身や子どものエピソード、悩み等を本音で語りましょう。
- ◎他の親の話にもしっかりと耳を傾け、子どもの様子と重ね合わせ、親として何ができるかを考えてみましょう。

実践

「親育ち」

- 子どもの個性や特質を子どもの様々な出来事やエピソードから把握し、理解する中で、子どもとどのように関わり、接していくかを学ぶ。
- 子どもの小さなトラブルやエピソードに付き合いながら、子どもの成長に伴って生ずるトラブルに、子どもが独立するまでの間、親として付き合いしていく決意と姿勢を形成する。
- 自己および家族の長・短所を認識し、長所を生かし他の親、家族に貢献できることを見出す。また、短所を支えてくれる人間関係を築く。

■ テーマ設定について

親の悩み

成長に伴う課題

- 進路についてどのように子どもと話し合い、決めていけばいいのだろう。
- 異性に関心をもち始めたけれど、親としてどう接すればいいのだろう。

家庭生活で

- 親と口をきかなかったり怒りっぽかったり、うまく会話が進まない。
- 子どもが何を考えているのかわからない。

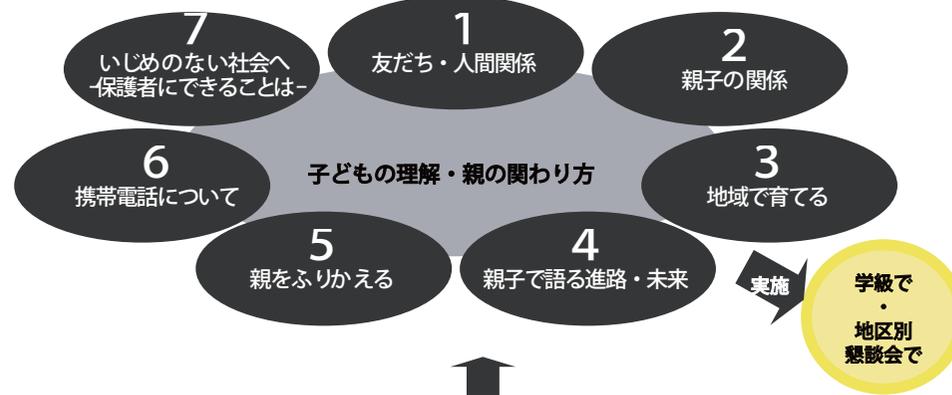
友達関係で

- 周囲の子の言動を必要以上に気にしている。表面上は親しくよそおっていても内心は違うみたい。友だちとの気持ちの通じ合いはあるのかなあ。
- 疎外したりされたりしていないだろうか。

地域社会で

- 社会性の豊かな子になってほしいから、地域の行事にもどんどん参加させたいけれど、中学生になったら地域の行事に参加しなくなった。

テーマ



子どもの姿と親の留意点

中学生になると体の成長がめざましく、体格が急速に大人に近づきます。また人間関係が大きく変わり、心の面でも子どもから大人へと変わりゆく時期にさしかかっています。自分の思いで行動しようとすることも増えてきますが、周囲と調和させながら自分の思いを伝えたり、行動したりすることにはまだ不慣れなために、生活のいろいろな場面でトラブルが生じやすい時期でもあります。たとえば、話すことを面倒がったり、ささいなことに腹を立て親に反抗したりということは中学生によく見られる姿です。親からは、我が子にどう接していいのかわからないといった声が多く聞かれるようになりますが、実は子どもも親との付き合い方に同じように戸惑っている時期なのかもしれません。変化の大きいこの時期だからこそ、親同士も支え合える人間関係を広げながら、子どもの新しい人間関係を見守ったり、学校との情報交換を密にしたりしながら、じっくりと腰を据えて子どもと向き合い、大人への坂を明るく力強く登っていけるようにしたいものです。

中学校では、複数の小学校出身の子が出会ったり、部活動への参加により新たな人間関係が生まれたりします。そのため人間関係がもう一度作り直されたり大きく変化したりします。



1 あなたのお子さんの人との付き合い方は変化してきているのでしょうか。みつめてみましょう。

(1) あなたのお子さんが小学生だったころの人との付き合い方には、どんな特徴がありましたか。

- 多くの友達と付き合う子だった
- 少数の子と付き合う子だった
- 一人で過ごすことが多い子だった

(2) 子どもたちの人間関係はどのようになっていますか。
たとえば、次のようなことはおこっていますか。

小学校の時は毎日のように遊んでいた友達がいたのに、中学校に入ってから、ぱったり遊ばなくなりました。新しい友達はできたのだろうか。学校のことも話してくれないから子どものことがまるで見えなくなってきた。

友達に誘われて遊びに行ったりするけど、帰ってくるとなんだかきげんが悪いみたい。今の友達関係に満足していなかったり、困ったりしているところがあるのかなあ。

このごろ友達何人かで遠くまで電車で出かけることが増えてきた。お金もたくさんつかうようになってきたし、暗くなっても帰ってこないこともある。どんな子と、どこで、どんなことをしてるんだろう。

「おたくの子、〇〇さんと付き合っているらしいね。」って言われてびっくり。異性に興味をもつようになってきたとは思ってたけど、まさかそんなことは思ってたなかった。これから、どんなふうに接したらいいんだろう。

(3) 今のあなたのお子さんの様子から、子どもをめぐる友達関係・人間関係を見つめましょう。

- 小学校時代と比べて、友達関係が変化しているようだ
- クラス、部活動以外の付き合いもあるようだ
- 自分の気持ちを話せる友達はいるようだ
- 友達関係で無理をしたり、本心を出せないでいたりするようだ
- 親に自分の気持ちや心配事が気軽に話せているようだ
- 親以外にも自分の気持ちを話せる大人がいるようだ

2 友達との付き合い方について、気がかりなこと、心配していること、あるいは、ほほえましく感じていること、感心したことなど、子どもにまつわる情報を伝え合ひましょう。

この年齢の子どもたちの間では、周りからどう見られるかを気にして、必要以上に仲良くふるまって見せたり、友達関係を保つために、本心とはうらはらに特定の子を避けたりするなど、複雑な関係ができてきていることもあります。また、友達関係で困っていてもその相談ができないままになっていることもあります。

しかし、子どもはいろんなところでいろんな方から見ていただいています。子どもの新しい人間関係を見守るためには、そういった方々からの情報が有効であり、親の間にも新しい人間関係を築いていく必要があります。今回、語り合った方との出会いも一つのきっかけとし、また、学校とも積極的に情報交換をしながら子どもを囲むネットワークを広げましょう。

テーマ1 友達・人間関係

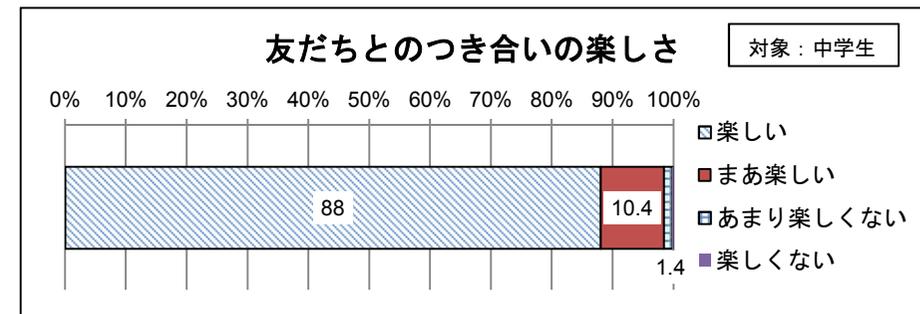
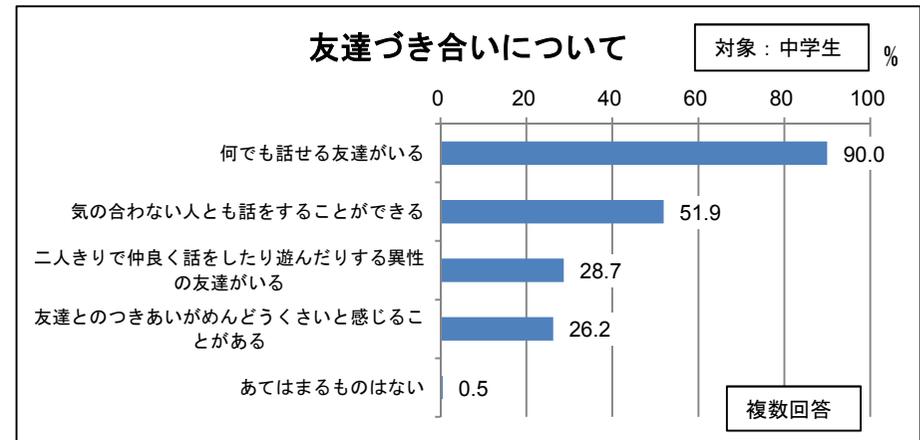
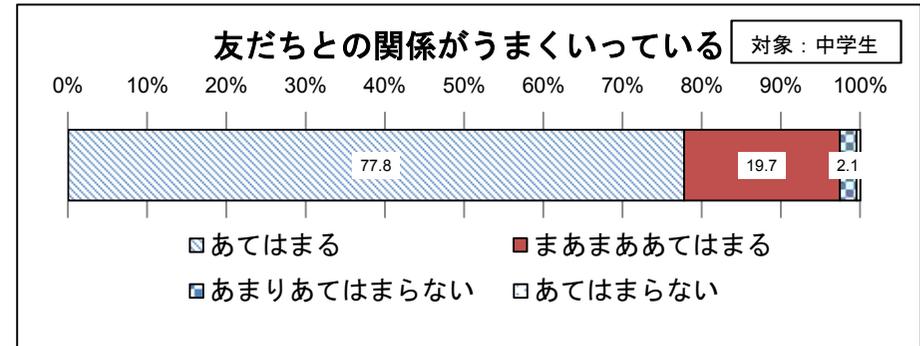
【ねらい】

- ◇親同士が新しい人間関係をつくる。
- ◇子どもの人との付き合い方について互いに情報を交換し合うことにより、我が子の人とのつきあい方がどのように変わってきているのかを見つめ直す。

【活動の流れと支援のポイント】

- ワークシートの始めの文を読み、中学校入学以来、友達関係が変わってきていること、そしてそれに伴って、親同士の新しい人間関係づくりも必要であることを確かめる。
- 4～5人のグループに分かれ、自己紹介をする。
 - 新しい親同士の関係がつかれるようにするために、グループ編成の時には下記のような工夫をし、知り合い同士のグループにならないようにする。
 - ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。
 - ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。
 - 本音で語り合うために、語り合いの中に出てきた情報については、他言しないことを確認する。
 - 簡単な名札や席札をつくり、同じグループになった人の名前を覚えやすいようにする。
- 我が子の育ちをふりかえるために、小学校期の人との付き合い方の特徴を思い出し、ワークシート1の(1)に記入する。(この間については、発表し合わない)
 - ありのままの我が子を見つめていくことが大切であることを伝える。
- ワークシート1の(2)を読み、子どもたちの友達関係や人間関係についてどのようなことが見られるかを伝え合い、現状をつかむ。
 - 例文を何人かに協力いただき、登場人物になりきって読んでいただく。
 - 話し合いに入る前に、子どもの現状を見つめ合うことが目的であることを確認し、よい部分も心配な部分も出し合うよう働きかける。
- 現在の我が子の人との付き合い方について考え、ワークシート1の(3)に記入する。
 - 記入後、右の資料を提示または配布し、親と子の意識にズレがある可能性をおさえる。
- 友達との付き合い方について自分が気がかりなことを出し合う。出されたことについて、見聞きしていることがあれば伝える。
 - 子どもは場面によって見せる姿が違うことがある。親が見たり気づいたりしていない子どもの姿などがあれば積極的に伝え合うよう促す。また、そういったことが今後でもできる親の関係づくりをしていくことが大切であることを伝える。
- グループ内で、もう一度お互いの名前を確かめ合い、話し合いを終了する。

【参考資料】



【平成25年度 中学生の意識に関する調査（内閣府）】

中学生は、心も体もどんどん成長していくときであり、それに伴って親子の間でも多くのトラブルが発生しがちです。子どもも親との付き合い方に戸惑いを感じているのではないのでしょうか。いまどんなトラブルをかかえているのか、お互いの子育ての体験を語り合うことを通じて、中学生の親としての力を高めたり、親同士で支え合う関係を強めたりしましょう。



1 たとえばこんなトラブルは起こっていませんか。



うちの子は、時々家族を傷つけるような言い方をするようになってきた。この前あんまり目にあまるから注意したら、反対に大きな声でどなり返ってきて、もう、手を上げるんじゃないかと思うぐらいの勢이었다。



中学校での様子や勉強のことなど、いろいろたずねるんだけど、返ってくるのは生返事ばかり。しつこくたずねると「うるさいなあ。」とおこってしまう。受験のこともあるから、いろいろ気になるのに、反対に子どものことがどんどん分からなくなってきた。



このごろ娘がお父さんをさけるようになってきた。お父さんが帰ってきたら、スーッと自分の部屋へ行ってしまう。お父さんから話しかけても気のない返事しかない。この先もっとひどくなりそうで心配。

自分が子育ての中で経験したトラブルや失敗を伝え合いましょう。

2 これまでのわが子との関係をふりかえりましょう。 たとえば、次のようなことはどうでしたか。

- 会話は..... 十分 ある程度してきた やや不足 不足
- 関わり方は..... 過保護 やや過保護 適度 やや淡泊 淡泊

3 自分が中学生だった頃、一番信頼できた大人はだれでしたか。 その人を信頼できたのはなぜだったのでしょうか。

4 話し合ったことを参考にして、 これからの親子関係づくりで大切にしたいことを書きましょう。

子どもは、問題にぶつかった時、頭ごなしに考えや方法を押しつけてくる人よりも、話に耳を傾け、一緒に考えてくれる人を求めています。大人がそのような接し方することによって、子どもは問題を乗り越えていく力を伸ばしていきます。不安や不満に包まれていた自分の心を、ふっと楽にしてくれた親や大人との心の通じ合いは、子どもの心の中にいつまでも消えずに働くことでしょう。

POINT

テーマ2

親子の関係

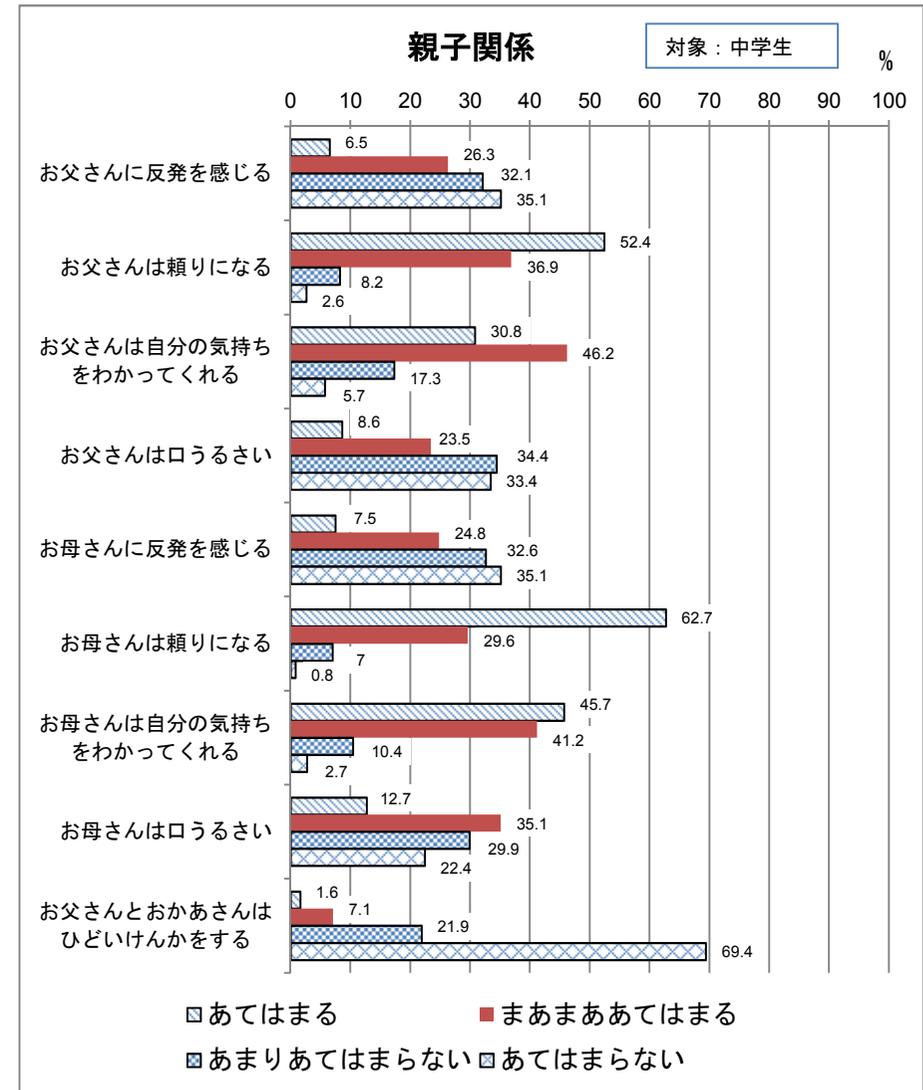
【ねらい】

- ◇お互いの子育て体験を語り合うことを通して中学生の親としての力を高める。
- ◇支える親同士の関係をつくったり強めたりする。

【活動の流れと支援のポイント】

- 4～5人のグループに分かれ、自己紹介をする。
 - グループの構成方法については、2ページを参照。
 - グループ内の進行役、発表役を各一人決める。
- ワークシート1の例を読み、自分が子育ての中で体験しているトラブルを出し合う。
 - 思春期の子を持つ親のほとんどが、トラブルを抱えた経験をもっていると思われる。しかし、それはなかなか打ち明けにくいものである。親としての学び合いを進めていく上では、そういったトラブルも出し合える関係を築いていく必要があるため、まずファシリテーター自身が親として経験したエピソードやトラブルを語り、参加者が、ここでなら自分のトラブルを語ってもいいという安心感がもてるようにする。また、互いに支え合う親となっていくために、語り合いの中に出てきた情報については他言しないことを確認する。
 - トラブルについては、そこでどのように対処したのか、その結果どうなったのか、といったことまで可能な範囲で語ってもらうよう促す。
- ワークシート2を記入し、自分と子どもとの関係にどのような傾向があるか確かめる。
 - 自分は、子どもにとって心を打ち明けられるような関係を築けているか、ふりかえて記入するよう働きかける。
 - 右ページの資料を提示し、親子関係を客観的にふりかえる参考にしてもらう。
- 自分が中学生だった頃、一番信頼できた大人と、その理由をワークシート3に記入する。
- 記入したことをグループ内で伝え合い、中学生の子どもが信頼する大人とは、どのような人なのか考え合い、グループで出た意見を全体の場で発表し合う。
- 話し合ったことや、ワークシート2に記入したことも照らし合わせて、これからの親子関係づくりで自分が大切にしたいことをワークシート4に書く。
 - 今後また話し合う場が設定できるようなら、それまでの間の行動目標を設定するのもよい。
- グループ内で、もう一度お互いの名前を確かめ合い、話し合いを終了する。

【参考資料】



【平成25年度 中学生の意識に関する調査（内閣府）】

中学生は体や心の成長がめざましく、いくつかの面では、すでに親を越えたと感じていることもあります。中学生が自分の力を発揮したり、試したりできる機会を地域社会の中で作り出せば、その体験から、自信を得たり、学んだり、あるいは地域の人とのつながり合いを深めたりすることができるでしょう。

みんなで地域社会に中学生の「出番」を準備しましょう。



1 中学生が力を発揮できそうな地域の行事や場面を書き出しましょう。

| | |
|--|--|
| | |
| | |

2 出てきた意見をもとに、中学生の活躍の場面をつくりましょう。

| いつ | どのような場で |
|----|---------|
| | |

3 この活動ではどの程度中学生に任せることが適当でしょうか。また、支援が必要だとすればどんな点でしょうか。

- 任せることは…企画 会場手配 渉外 物品購入 広報 運搬 運営 会計 片づけ
- 支援することは…参加者等の安全確保 中学生の保険加入……などから考えましょう。

4 この活動の相談役となってもらえる大人や学生、あるいは関係する団体を確認しましょう。

中学生の活動を、周囲の人がどのように評価するかが、次回の意欲に大きくかわります。改善すべき点を伝える必要がある場合でも、まず、努力した部分を積極的に認め、そのあとで、今後の目標として伝えると効果的です。成果をどのような形で認めたり、広く伝えたりするのかといったことについても、事前に相談しておきましょう。

また、このような活動を通じて地域の人とのつながりが深まれば、子どもたちも、地域の人から見守られていることを意識するようになり、自覚や責任をもって行動しようとする意識が高まります。

POINT

テーマ3

地域で育てる

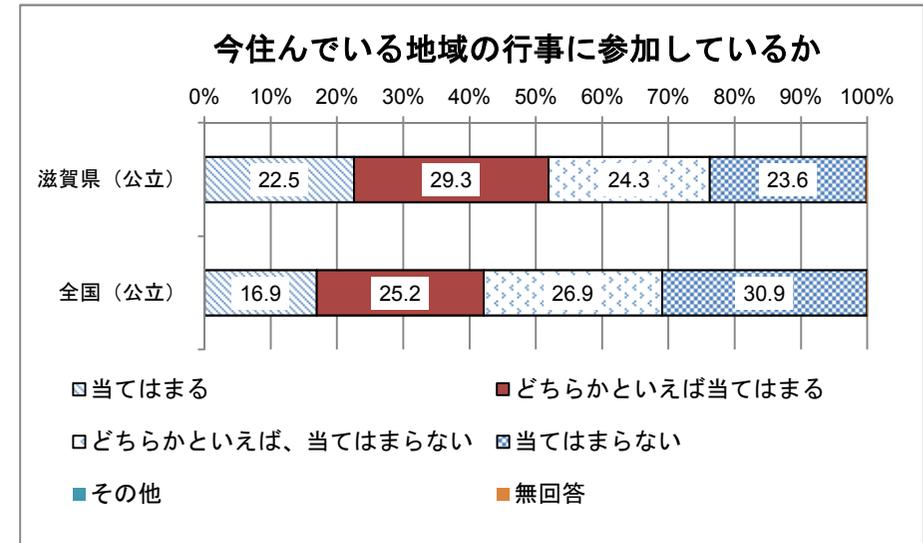
【ねらい】

◇地区別懇談会等において、地域の行事の中で中学生が力を発揮できる場面を創り出すことにより、中学生が自信を高めたり地域の人々とのつながりを深めたり、あるいは地域社会全体で中学生を育む環境づくりを進めたりすることができるようにする。

【活動の流れと支援のポイント】

- 1 今回の活動のねらいを確かめる
○右ページの資料を提示し、全国的には地域のつながりが弱くなってきていることや、そんな中でも滋賀県では地域のつながりがまだ生きていることについて確かめ合う。
○地域に中学生が力を発揮できる場を創り出すことの意義について話す。
(家庭教育学習資料「地域で育てる」のシートを参照)
- 2 4人程度のグループをつくり、自己紹介をする。
○グループ内で進行役、記録役、発表役に各一人に、また応援役にその他の人になっていただく。
- 3 中学生が力を発揮できそうな地域の行事や場面を各自思いつくだけ、紙片に書き出す。
- 4 自分が書き出した紙片を簡単な説明を加えながら、順番にグループの中央に出していく。
- 5 出された紙を見合い、同類のものをかためていき、その中で特に実現させたいものを1～3程度選び出し、やや大きめのカードに油性ペン等で書き出す(記録係)。
- 6 グループで出た意見を紹介しながらカードを提示する(発表係)。
- 7 提示されたカードをもとに全体で話し合い、中学生の活躍の場を決定する。
- 8 ワークシートの3を参考にして、中学生に任せることや必要な支援について確認する。
- 9 中学生が活動していく際の相談役や団体を確認する。
○時間があれば中学生の活躍の認め方、伝え方についても話し合う。

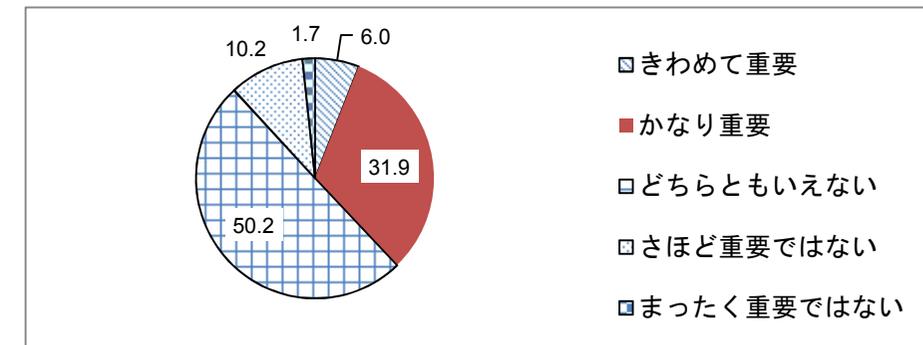
【参考資料】



【平成29年度全国学力・学習状況調査(中学校調査)】

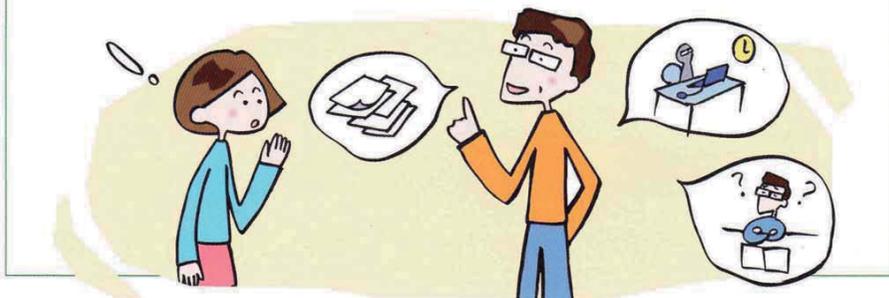
◇これからの生活の重要度

○自分が住んでいる地域・社会をよくする活動ができる時間や機会があること



【平成23年度国民生活選好度調査】

社会体験や職場体験を行ったあとは仕事について語り合うチャンスです。
話し合ってみましょう。仕事のこと、進路のこと。



1 それぞれの立場で書き込みましょう

中学生

仕事を体験してみて、自分が感じたことを伝えましょう。

あなたが体験したことで、伝えたいことをメモしましょう。

親

仕事をしていて、喜びを感じるのはどんなときでしょう。

あるいは、自分が進路を決めたとき、どんな気持ちだったでしょう。

仕事にまつわる、あなたの思いをメモしましょう。

2 伝え合いましょう

(1) 中学生から発表しましょう。

(2) 親の気持ちを伝えましょう。

(3) これから、進路や将来の仕事を決めていくときに、どのようなことを大切にすればいいでしょうか。

3 話し合いの中で参考になったことを書きましょう

中学生になると、自分の将来を描き始めたり、進路について考えたりする機会がふえてきます。親がここまで歩んできた中で感じた仕事の意義や、あたたかな家庭を築くために自分なりに力を注いできたことなどについて、我が子と語り合うことが、子どもが自分の歩む道を探るうえで大きな支えになります。ふだんから、子どものよさを積極的に認めたり、将来について語り合ったりする機会を大切にしましょう。

POINT

テーマ4

親子で語る進路・未来

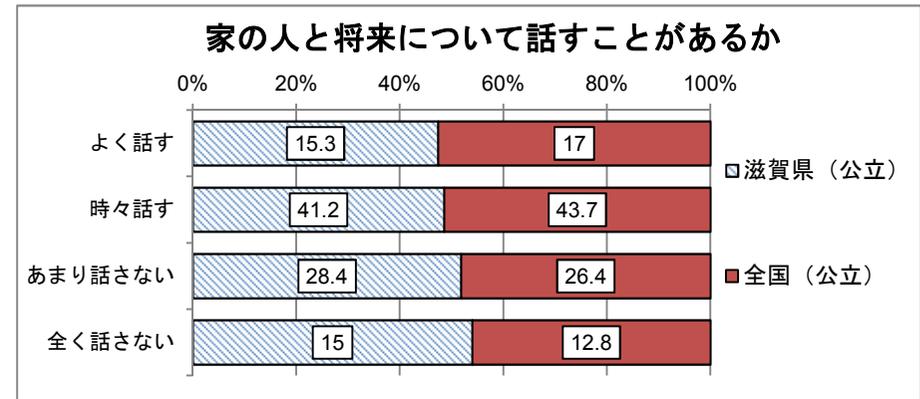
【ねらい】

◇職業体験や社会体験あるいはテーマ3の「地域で育てる」の実践後など、仕事を体験した後に、仕事について親子で語り合い、進路や将来の仕事についてともに考え合っていく契機とする。

【活動の流れと支援のポイント】

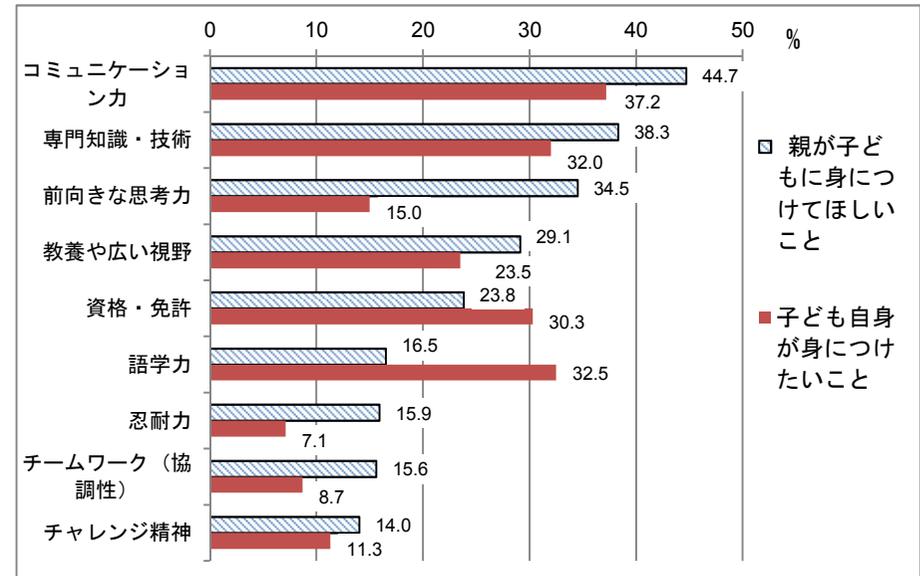
- 親子4組程度でグループをつくり、自己紹介をする。
 - 本音で語り合うために、語り合いの中に出てきた情報については他言しないことを確認する。
 - グループ内に一人進行役を設けてもらう。
 - 親子で互いのよいところを一つ示しながらグループのメンバーに紹介したり、簡単なゲームをしたりして、和やかに話せる雰囲気ができるようにする。
- ワークシート1の子、親それぞれの欄に記入する。
- 記入したことをもとに、子ども（中学生）が発表する。
 - 積極的に相槌を打ったり、発表のあとに質問の時間を設けたりして、中学生が思いを詳しく話せるようにグループ内で支援するよう伝える。
- 記入したことをもとに、親が発表する。
 - 中学生からも質問をしてよいことを伝える。
- 進路や将来の仕事を決めていくとき、何を大切にすればよいと思うか述べ合う。
 - 進路を決めていく上で不安に感じていることも述べてよいことを伝える。
 - 具体的な進路や将来の仕事について考えている場合は、その内容やどのようなことからそう考えたのかを語ってもらう。
- 話し合いの中で参考になったことをワークシート3の欄に書く。
 - 時間に余裕があれば、数人に発表してもらう。
 - 活動のまとめとして右ページの資料を確認しあってもよい。
- 話し合ったメンバーの名前をもう一度確かめ、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。

【参考資料】



【平成29年度全国学力・学習状況調査（中学校調査）】

◇親が子どもに身につけてほしいこと・子どもが身につけたいこと



【親子の関係についての意識と実態 2016 明治安田生活福祉研究所】

5 親をふりかえる

学級でまたは地区別懇談会で

進路のこと、異性のこと、さまざまな誘惑、
…心が揺れ動きやすいこの時期こそ、相談できる人が必要です。
親子がいつでも語り合える関係があれば、子どもが抱えそうなトラブルも、早め、早めに親子で乗り越えていけます。自分が子どもだった頃を思い返しながら、子どもを受け止める力をお互いに高めましょう。



1 あなたが中学生の頃、
自分の親にどんな親であってほしいとっていましたか。
中学生だった自分が親に望んでいたことを思い出して語り合しましょう。

中学生だった自分が親に望んでいたこと

話し合いメモ

2 子どもから見ると、あなたは今、どのような親でしょうか。

よいと思うところ

よくないと思うが、直らないところ

Blank box for writing positive observations.

Blank box for writing negative observations.

3 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう

Five horizontal lines for writing discussion notes.

完璧な親はいません。また、自分一人ですること、自分の力だけでは、うまくいかないことがあります。ですから、子どもを育てていく上でおこってくるさまざまな問題を自分だけでかかえこんでしまわないで、家族や周囲の人の力を借りながら解決していくことも大切です。

親は、家族同士を、あるいは家族と地域をつなぐ要です。互いに支え合える関係づくりを家族の中で、そして地域の中で積極的に進めていきましょう。

POINT

テーマ5 親をふりかえる

【ねらい】

◇これまでの親としての自分をふりかえり、互いに語り合うことを通して、これからの子どもとの向き合い方を考える。

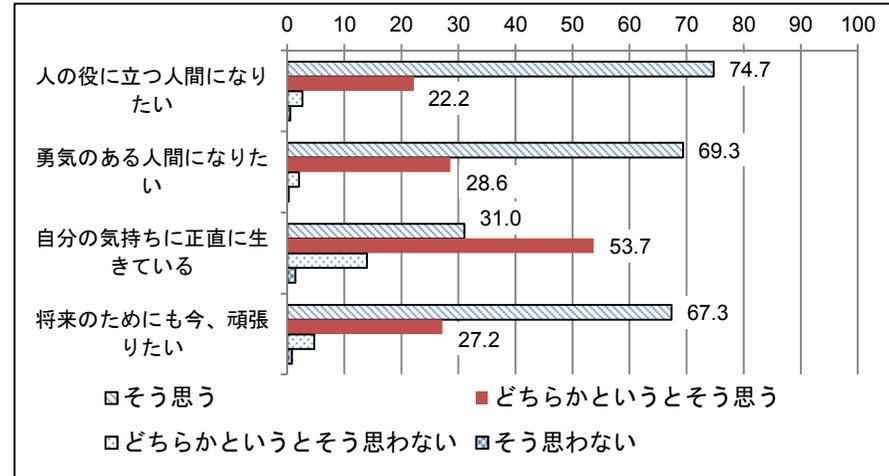
【活動の流れと支援のポイント】

- 4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。(10人までであれば全体で話してもよい)
○グループの構成方法については、2ページを参照
○本音で語り合い、互いに支え合う親となっていくために、語り合いの中に出てきた情報については他言しないことを確認する。
○グループ内に一人進行役を設ける。
- 自分が中学生だった頃、自分の親にどんな親であってほしいと望んでいたのかをワークシート1に書く。
- 自分が書いたことをグループ内で伝え合う。
○右ページ(上)の資料を示し、子どもの自分自身についての評価と親として感じていることを比べてみてよい。
- 子どもから見た場合、今、自分はどのような親だと思うか、「よいところ」「よくない思うが直せないところ」に分けてワークシート2の欄に書き込む。
○始めから完璧な親などいないこと、それは子どもが中学生の段階になっても同様であることを伝え、自分の思いを素直に書き込むよう促す。
○「なかなか直せないところ」については、家族や他の親の力を借りたり、互いに支え合ったりすることで改善できないか考え合うよう促す。
- 自分が書いたことをグループ内で伝え合う。
- 話し合いの中で自分が気づいたこと、参考にしたいことをメモする。

【参考資料】

◇中学生の価値観について

%



【平成25年度 中学生の意識に関する調査(内閣府)】

「家族だからこそ・・・」心のノート中学生版より

家庭は、一方では人間を生み育てるところ

疲れた自分をいやす、安らぎの場

しかし、もう一方では、つながりの深さゆえに

人を苦しめ、ゆがめる場ともなる。

他人だったら、そんなことはないのに

家族ゆえに

家族だからこそ

思いがあり、願いがあり、愛があるから

そこに「ゆがみ」が生ずる。

他人だったら、絶対そんなことはないのに・・・

孟子は

君子の第一の楽しみとして

一父と母がともに健在で

兄弟もつつがなく過ごしている一

ことをあげている。

でも、これは、だれにとっても

いつまでも続くものではない。

早い遅いはあったとしても・・・

居ることがあたりまえではない家族。

いま、もう一度

その思い、その願い

それぞれの愛をしっかりと受け止めよう。

そして、自分からも愛を、注いでみよう。

6 ケータイ・ネットについて

携帯電話・スマートフォンやパソコンは、コミュニケーションの道具として、また、インターネットに接続して日常生活に必要な様々な情報を得るものとして、大人だけでなく、子どもたちの生活においても深く関わりのあるものとなってきています。

その一方で、様々なネットいじめやネット犯罪が起き、子どもが巻き込まれるケースが増加しています。また、子どもが被害者だけでなく加害者になるケースも出ています。



・携帯電話の利用率

小学生 5.4%
中学生 2.8%
高校生 1.0%

・スマートフォンの利用률

小学生 23.0%
中学生 54.6%
高校生 94.1%

【内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査（2017）」】

・SNS やブログ、ゲームサイトなどのコミュニティサイト（出会い系サイトを除く）を利用して犯罪被害にあった子どもの数は、1,736人。

【警察庁「平成28年度出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する事犯の現状」】

コミュニティサイトで被害にあった子どもの内訳

小学生・保護者 2.5%
中学生・保護者 37.7%
高校生・保護者 51.0%

【平成29年度版総務省インターネットトラブル事例集】

フィルタリングを使っていると回答した

小学生・保護者 27.2%
中学生・保護者 47.4%
高校生・保護者 45.8%

【内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査（2017）」】

ネット社会と中学生



※実際に起きたトラブルです

なりすまし投稿によるひぼう中傷

◆他人になりすまして書き込んで

△校のC君は、○校のD君がどうも気に入らず、D君になりすまし、ネットに「○校のE君が万引きをしている」と、ウソの書き込みをしました。

◆書き込んだ本人が特定された

E君がD君を問い詰めると、D君は書き込んでないことが分かりました。調べると、△校のC君の仕業だと判明。学校間トラブルに発展しました。



◇考えてみよう

誰かになりすますことも、誰かを陥れるような書き込みをすることも、違反行為です。

万が一、こういったトラブルに気づいたとき、できることはありますか？

A：やるという子がいたら B：被害に遭った子がいたら C：こんな投稿を見かけたら

【平成29年度版 総務省インターネットトラブル事例集】

1 ケータイ・ネット等は、「光と影」があるとされています。良い面（助かっている点）、悪い面（困っている点）、それぞれについて考えてみましょう。

良い面

悪い面

2 ケータイなどについて、親としてどのようなことに注意したらいいのでしょうか。

3 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

POINT

子どもたちがケータイやパソコンを介してインターネットを利用し、トラブル・犯罪に巻き込まれる事件が増加し、子どもの心身への影響が懸念されています。

携帯電話等は大変便利なものであるとともに、非常に「危険性」をはらんだものです。家庭では、その「危険性」を教え、ケータイやネット利用のルール、マナーについて十分に話し合うことが大切です。また、苦手な分野だからと敬遠せず、保護者が進んで新しい知識を身につけるように努めることも大切です。

中学校版 テーマ6 ケータイ・ネットについて

【ねらい】

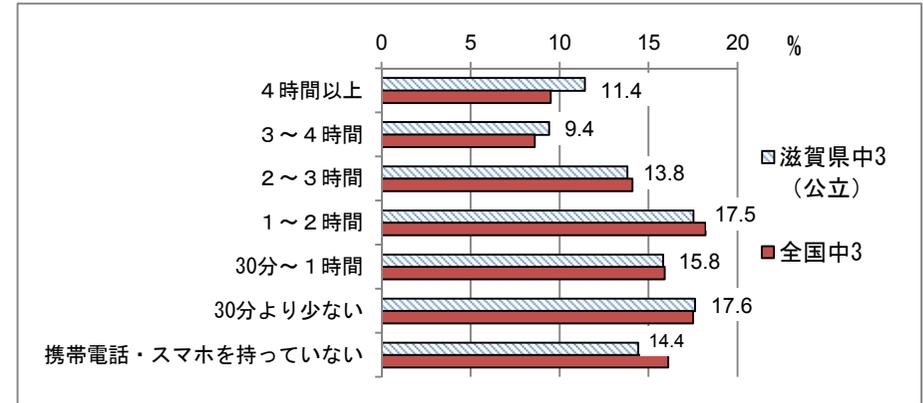
◇ケータイ（携帯電話・スマートフォン）やネットコミュニケーションは、親より子どものほうが多くの情報を持っているという家庭も少なくない。しかし、現実として中学生に関する様々な事件やトラブルが起きていることを踏まえ、ケータイやネットの特徴を見つめ直し、子どもたちの所持や利用についてどんなことが大切かを考える契機とする。

【活動の流れと支援のポイント】

| | |
|--------------------------|--|
| 1 自己紹介 および アイスブレイク | <p>○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 （10人までであれば全体で話してもよい）</p> <p>○グループ編成の時には下記のような工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 <p>○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。</p> <p>○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。</p> |
| 2 テーマについて深める | <p>○ケータイやネットの良い面、悪い面についての考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートのはじめの文および「ネット社会と中学生」のデータや事例を読み合い、考えるきっかけとする。 ・ワークシートに記入した考えを交流し合うことで、保護者としてしっかりと子どもをサポートしていかなければならないことを確認する。 |
| 3 語り合いの約束を確認する | <p>○語り合いに入る前に、約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここだけの話にする。（個人情報に関することについて） ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話すぎない。 ・発言を強要しない。 |
| 4 語り合い活動 | <p>○親として気をつけたいことについて語り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、ワークシートに記入したことを伝え合う。 ・知識の差が大きい分野なので、だれもが気軽に発言できるような雰囲気づくりが心がける。 |
| 5 資料により現状を知る | <p>○右ページの資料や危険性のわかる資料、最新のデータなどを示し、ケータイやネットの利用やトラブルについての現状を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューター室等で実際にコンピューター等を使い、有害サイト等の現状を確認し合うのもよい。 ・専門的な話にはばかり流れないように気をつける。 |
| 6 まとめ | <p>○話し合いの中で参考になったことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらおう。 ・シートのポイントについて確認し合う。 |
| 7 ふりかえり | <p>○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。</p> |

【参考資料】

◇1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



【平成29年度全国学力・学習状況調査 中学校調査】

◇保護者が子どもをネット危機から守るための7つの約束

- 1 大人も子どももルールやマナーを守ります**
大人もインターネットと携帯電話の活用に関するルールやマナーを守ります。
- 2 ネットで知り合った人とは会いません**
子どもには、ネットで知り合った人と合わせないようにします。
- 3 家庭のルールをつくります**
子どもと一緒に安全なネットライフのための家庭のルールをつくり、守ります。
- 4 いじめはしません、見逃しません**
ケータイいじめは絶対にさせませんし、見逃しません。

保護者と子どもが一緒に誓う

- 5 トラブルは大人に相談します**
インターネットや携帯電話のトラブルは、一人で悩まないで大人に相談するように日頃から話しておきます。
- 6 加害者にも被害者にもなりません**
子どもをネット上の加害者にも被害者にもならないように、家庭での予防教育に力を注ぎます。
- 7 大人の携帯電話を勝手に使いません**
子どもが大人の携帯電話を勝手に使わないよう十分注意します。

【財団法人マルチメディア振興センター「安心インターネットライフ★ガイドより」】

7 いじめのない社会へ —保護者にできることは—

「いじめ問題」が報道されるたび、同じ世代の子どもを持つ保護者として、悲しい思いで受け止めるだけでなく、我が子への不安も高まります。「いじめにあっていることを隠していないだろうか。」「友達を苦しめるようなことをしていないだろうか。」「子どもたちは、どの子も自分の環境の中で一生懸命がんばっています。すべての子どもたちが、自分らしく楽しい毎日過ごすために、わたしたち保護者は何ができるのか考えてみましょう。

★中3生徒作文「いじめのスパイラル」より抜粋

.....

中学校一年生の頃の私はいじめなんて自分に関係ないと思っていました。私は運動部に所属し、その中で一年生はグループに分かれることはあっても自分一人になることはありませんでした。だから私は安心していました。

ところが、私は急に一人ぼっちになり始めたのです。自分では、なぜそうなるのか分かりませんでした。離れていく友達に焦りと不安を感じながら、必死にみんなについていきました。でも、日が経つにつれて友達は完全に私から離れていき、私は一人ぼっちになりました。いじめは、部活動中だけでなく日常生活にも広がっていきました。でも家族にはこのことを一切話しませんでした。心配をかけたくなかったのと、自分のこんな情けない姿を見せたくなかったからです。辛かったけど、クラスの友達がいつも一緒にいてくれたので何とかまだ耐えられました。いつも笑顔で明るいふりをして、誰も見ていないところで泣く、そんな学校生活を送っていました。

そんなある日、学校で生活アンケートがありました。その中にいじめに関する項目があり、私はその質問を読んでしばらく考えました。迷ったあげく、限界を感じていた私は全て正直に答えました。その日私は家に帰って両親にも正直に話しました。私が泣きながら話すと、父も母も「よく頑張ったね。」と泣きながら私の背中をなでてくれました。部活の先輩にも相談したら、先輩は黙って私の話を聞いてくださり、.....

【第31回全国中学生人権作文コンテスト入賞作文集より（法務省）】

- この作文のこの後は、周りの人の支えや、いじめていた子との和解を経ていじめが解消し、「いつも相手の気持ちを考えること」「たくさんの人に支えられていること」を学んだこととしてまとめられています。
- いじめを未然に防止する、いじめを乗り越えることは、難しいことのように思えますが、決して不可能なことではなく、子どもたちのためには必ずそうしていかなければならないことです。保護者としてできることがきっとあるはずです。

1 作文を読んでどんな感想を持ちましたか。感想や、いじめをなくすために保護者ができることについての考えを書きましょう。

2 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

POINT

「いじめ」の問題は、深刻かつ重大な社会問題であり、家庭・地域・学校が連携して、その解決に向けて取り組まなければならない重要な問題です。子どもたちが学校や地域という集団生活の場で、よりよい人間関係（友人関係）を築くよう、日頃から子どもたちを支援し、援助するとともに、一人ひとりが人権感覚をより高め、それを日々の生活に生かしていくようにすることが大切です。

中学生版 テーマ7 いじめのない社会へ - 保護者にできることは -

【ねらい】

◇いじめ問題は、それに関わりのある子どもや保護者、あるいは学校だけの問題ではなく、社会全体の問題であることを確認し合い、保護者として何ができるかということについて共に考え、共に行動しようとする意識を高める。

【活動の流れと支援のポイント】

| | |
|--------------------------|--|
| 1 自己紹介 および アイスブレイク | <p>○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい)</p> <p>○グループ編成の時には下記のような工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 <p>○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。</p> <p>○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。</p> |
| 2 事例からテーマについて知る | <p>○ワークシートの始めの文および中3生徒の作文を読み、感想やいじめをなくすために保護者ができることについて考えることをワークシート1の欄に記入する。</p> |
| 3 語り合いの約束を確認する | <p>○語り合いに入る前に、約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここだけの話にする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話しすぎない。 ・発言を強要しない。 |
| 4 語り合い活動 | <p>○自分が書いたことをグループ内で伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず感想を語り合うことからはじめ、いじめをなくすために保護者のできることについて考えを広げていく。 ・お互いの意見に共感し合うように進行する。 <p>○話し合いから気づいたことや参考となったことを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらおう。 |
| 5 まとめ | <p>○語り合いのまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのグループに別れて話し合った場合は、グループで出てきたことを交流し合いできるだけ多くの考えに接することができるようにする。 |
| 6 ふりかえり | <p>○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。</p> |

【参考資料】

いじめ早期発見チェックポイント

☆子どものSOSをキャッチしましょう☆

チェックしてみましょう

- 表情がさえず、おどおどした様子が見られる。
- 持ち物をひんぱんになくしてくる。
- 教科書やノートにいたずらをされて帰ってくる。
- いろいろと理由をつけて、お金をたびたび要求される。
- 衣服を汚してきたり、あざや傷をつけてきたりする。
- 家族の些細な言葉にイライラしたり、反抗したりする。
- 登園・登校をしぶったり、早退や欠席が多くなる。
- 家族を避け、何か隠しているような気配が感じられる。
- TVゲームなどの一人遊びに夢中になり、外出が少なくなる。
- よく電話がかかってきて、困っている様子がうかがえる。
- 体のあざや傷を隠すため、お風呂に入るのを嫌がるようになる。
- 学習意欲をなくし、学校の成績が急に悪くなる。
- 頭痛・腹痛などをよく訴えるが、特に異常はない。

【滋賀県教育委員会「ストップいじめアクションプラン」より】

○子どもに話を聞くときのポイント

※まずは口をはさまずに聴くことに徹しましょう。

◎日頃から話しやすい雰囲気づくりを

いじめのことだけでなく、本音で話ができる関係をつくっておきたい。親の期待の大きさを感じていたり、良い子を演じていなければ親に愛されないと考えている子どもは、自分の弱みを親や教師に見せられない。

◎ありのままを受け止める

いじめっ子のタイプ、いじめられっ子のタイプという思い込みや先入観は捨てる。同じ話の繰り返しでも、本人の気がすむまで話させる。(別のことを思い出したり、問題を客観的に見られるようになることもある。)

◎共感的に受け止める

「そんなことくらい」と軽く見ない。すべてを話していないこともある。また、心の痛みは本人にしかわからない。(たとえ口だけのいじめでも、大勢から、毎日のように繰り返されれば、精神的に追い詰められる。精神が健康なときには、笑っていられる言葉も心身に弱っているときには、大きな打撃となる。)

相手の身になって考え、「私はあなたの味方だよ。」ということをしつかりと伝えることが大事。

【WAVE 出版「わが子はいじめから守る10ヶ条」NPO法人ジェントルハートプロジェクトより抜粋】

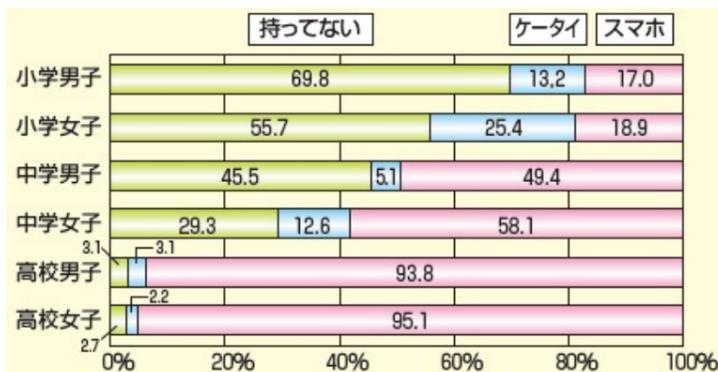
8 ケータイ・スマホの使用とわが家のルール

スマートフォン等を使用することは、生活の中で便利な反面、長時間使用などにより、学習時間の減少による学力低下や睡眠不足による集中力の低下につながるおそれもあり、成長期にある子どもたちに大きな影響を与えています。

また、身体的・心理的影響や有害サイトの問題、家族との会話の減少なども心配され、見過ごすことができない緊急の課題となっています。



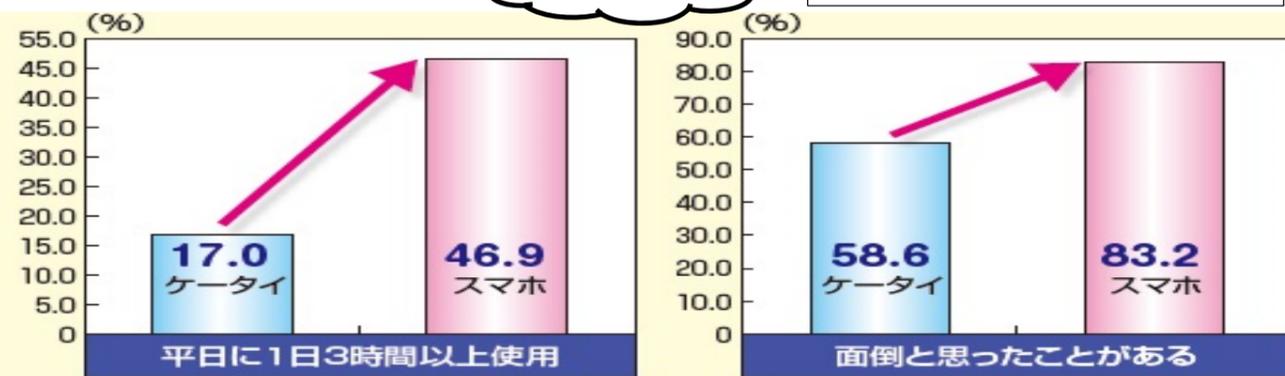
①滋賀県校種別 携帯電話所持率



ケータイ・スマホアンケート調査

●平成 26 年度、県教育委員会と県PTA 連絡協議会が連携して、「子どものインターネット利用実態調査」に取り組みました。
小学生、中学生、高校生 25 名による実行委員会では、話し合いの結果をもとに、平成 26 年 10 月に、小学生から高校生まで 2,505 名にアンケートを実施しました。その結果から見てきたのは・・・

②平日の携帯電話の使用時間



③無料通信アプリ (LINE 等) を「面倒くさい」と思ったことがある

【こんな事例があります】

中学2年生 (女子) のAさんは、いつも携帯電話を手元においてメールをしています。食事中でも何通もメールが届くので、なかなか食べ終わりません。また、家族旅行でも、電波の届かないところには行きたがらないなど、メールをすることを何より優先しています。最近では、誰かとメールをしていないと孤独感を感じ、友だちからのメールの返信が少しでも遅れると不安になるなど、情緒不安定になってしまいました。今ではメールでのコミュニケーションが中心になってしまい、友だちと直接会って話すことが苦手になってしまいました。

「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」(文部科学省)より

1 みなさんのご家庭では、ケータイやスマホをお子さんに持たせていますか？
その際のご家庭におけるルールを決めていますか？

- ・子どもが希望すれば持たせるつもりです
- ・子どもが希望しても持たせないつもりです

私の考えは・・・

2 ケータイ・スマホの使用について、親としてどのようなことに気がつけたいと考えますか？

3 子どもがケータイ・スマホを利用するにあたり、わが家のルールを考えてみましょう。

第1条

第2条

第3条

POINT

ケータイ・スマホは学年が進むにつれて、子どもたちの所持率は高くなり、日常生活に深く浸透している状況にあります。その使用にあたっては、子どもに任せきりにするのではなく、適切なルールを親子で話し合いつくるなど、過度な使用を抑える取組を進め、子どもの基本的な生活習慣を確立していくことが大切です。また、親同士も交流し、保護者のつながりのなかで、子どもたちを温かく見守りましょう。

中学生版 テーマ8 ケータイ・スマホの使用とわが家のルール

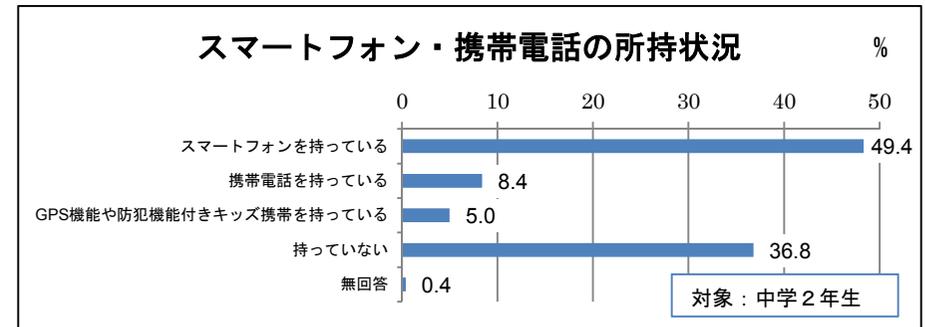
【ねらい】

◇近年、スマートフォンの無料通信アプリが子どもたちの生活に浸透し、常に触っていないと不安になったり、メールができないと情緒不安定に陥ったりするなど、スマートフォンへの依存は日常生活に支障をきたすことがあります。その所持や使用にあたっては、親子でよく話し合い、子ども任せにするのではなく、適正な使用ができるよう家庭内のルールづくりを進めましょう。

【活動の流れと支援のポイント】

| | |
|------------------------------|--|
| 1 自己紹介 および アイスブ レイク | <p>○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい)</p> <p>○グループ編成の時には下記のような工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 <p>○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。</p> <p>○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。</p> |
| 2 テーマにつ いて深める | <p>○ワークシートのリード文を読み、語り合いのテーマを確認します。</p> <p>○アンケート調査結果の資料や事例を読み、自分の考えや感じたことをワークシートの1、2に記入する。</p> |
| 3 語り合いの 約束を確認 する | <p>○語り合いに入る前に、約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここだけの話にする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話すぎない。 ・発言を強要しない。 |
| 4 語り合い 活動 1 | <p>○親として気をつけたいことについて語り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、ワークシート1、2に記入したことを伝え合う。 ・それぞれの家庭の考えを交流しやすいよう、だれもが気軽に発言できるような雰囲気づくりに心がける。 |
| 5 語り合い 活動 2 | <p>○事例を読み、ルールづくりは子どもを守るために必要であることを確認し、携帯電話やスマホの使用について、家庭におけるルールを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が一方向的に押し付けるのではなく、親として提案したいルールを考え、ワークシート3に記入する。 ・考えたルールをグループで発表し、交流する。 |
| 6 まとめ | <p>○話し合いの中で参考になったことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕があれば、全体で数人に発表してもらおう。 ・シートのPOINTについて確認し合う。 |
| 7 ふりかえり | <p>○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。</p> |

【参考資料】



【子どもとメディアに関する意識調査 公益社団法人 日本PTA全国協議会 2016】

＜滋賀県スマホ宣言 2016＞

- ①もっと一緒に時間を過ごそう！
- ②スマホは永久 子どもは一瞬
- ③親と子が 両方守れるルールを作ろう

＜スマホ特別委員会が出された意見より＞

○子どもたちからの意見

- ・スマホは無いものに触れることができる。
- ・世界が広がる。
- ・友だちと喋っていることが楽しい。
- ・今だからできることを楽しみたい。

○大人からの意見

- ・SNSに縛られた今の時代の子どものしんどさを親も理解してあげたい。
- ・スマホの利便性を理解しつつもダメなものはダメ。
- ・子どもを守っていくにはものわりの良い親ではダメな時もある。時には、「闘う親」にもなりましょう。
- ・大人もスマホに関する情報をよく知り、子どもたちの平成の常識と大人たちの昭和の常識をお互いに理解し、親子・家族で歩み寄り話し合うことが大切。

○まとめ (アンケート結果から)

おかんのスマホ使用時間が長いほど、その子どももスマホの時間が長くなる傾向にある。

おかんへの提言・・・スマホを見るより私を見て！

話し合いの中で、使用について親子でルールを作ることが重要だという意見が多く出された。

【平成28年度滋賀県スマホサミット】